

「チルドレンファースト 子供政策の加速に向けた論点整理」 意見募集結果（自由意見一覧）

・意見件数：488件（回答者数：98人）

※集計方法：1通の中にある、御意見と考えられる部分を件数とカウントしています。

<今後どのような取組がさらに必要か>

【ヤングケアラー】

意見内容	都の考え
こどもたちがケアに組み込まれない仕組みづくり、ケアをさせない意識づくり	政策強化の方向である「ヤングケアラーの実情を踏まえた多面的支援の拡充」において、ヤングケアラー本人も含めた家族全体の実情を踏まえ、きめ細かな支援を展開してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
相談窓口の設置だけでなく具体的な支援策も作ってほしい（ヘルパー派遣等）。	
ヤングケアラー本人への支援だけでは足りないなのでその家庭全体への支援を行政を中心に実施すべき。	
家事、介護の外注先を増やす。	
ヤングケアラーを救うというより、ヤングケアラーを使って支援が必要な親を見つけ出せる仕組みが必要	政策強化の方向である「『早期把握』と『相談・支援』へのつながりの強化」において、面談等によるきめ細かな把握と、DXの推進により相談対応力の強化に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
ケアの対象となる人を社会で見る仕組み（介護福祉、保育園等）の利用のしやすさ	政策強化の方向である「多機関連携の具体的実践」において、区市町村、学校、地域の関係機関、支援団体等と連携した包括的ネットワークの構築を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【ヤングケアラー】

意見内容	都の考え
シングルマザーの場合、母親が倒れたら子どもに負担をかけてしまう可能性がある。万が一の時にどこかに子どもが相談できる窓口がほしい。 (身近な大人に相談できる仕組み、相談しやすい仲間が集まりやすい仕組み等)	政策強化の方向である『『早期把握』と『相談・支援』へのつながりの強化』において、ヤングケアラーが声を上げやすく、情報を得やすい環境整備に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
そもそも、関係性の貧困により助け合えない社会の歪みがここに現れているように思われる。親が妊娠したときから相談相手がいて、さまざまなネットワークを有しており、子どもは子どもでユースセンター（クリニックも重要であるが、それよりもっと気軽に居場所とできるところ）やプレイパークや児童館などに自由にアクセスできる状況があれば、深刻化する前にサポートできる可能性が高い。そういった予防保全的かつ包括的な取り組みに期待をしている。	政策強化の方向である『『早期把握』と『相談・支援』へのつながりの強化』において、ヤングケアラーが声を上げやすく、情報を得やすい環境整備に取り組んでまいります。また、"ネウボラの仕組み"において、全ての子育て家庭とのつながりを重視した、新たな人的支援の仕組みの構築に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
相談しやすい場所を増やすこと。スクールカウンセラーの配置が少なすぎる。学校には常時配置すべき。	ヤングケアラーの相談支援に当たっては、スクールカウンセラーの面談等によりきめ細かな把握を行っております。スクールカウンセラー以外にも、東京都では、都立学校に派遣するユースソーシャルワーカーの専門性強化やスクールソーシャルワーカーの体制整備にかかわる補助拡充等により、専門性の高い人材の確保や区市町村への支援の強化等を通じ、ヤングケアラーを早期に発見して適切な支援につなげております。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
学校での定期的な啓蒙活動。少しの時間でいいので児童に伝えてほしい。 また、ヤングケアラーになってしまう家庭にも問題があるので大人への啓蒙がより必要	政策強化の方向である『『早期把握』と『相談・支援』へのつながりの強化』において、ヤングケアラーが声を上げやすく、情報を得やすい環境整備に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子供の持つ権利を保護者に理解させる必要性。権利の侵害は親でも許されず、侵害した場合は法的措置をとる。	
ヤングケアラーの子どもから大人まで含めた認知	
子どもが自分の状況を理解できる機会を作ること	

【ヤングケアラー】

意見内容	都の考え
実態調査が必須	東京都では、都内のヤングケアラーの実態を把握するため、令和２年度に国が実施した「要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査」について、都分集計を行いました。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
ケアが必要な項目とレベルに応じた福祉介入を進めるための現状調査から方法論の確立までを早期に実施すべき。	
学校の教職員がヤングケアラーを発見したときに、スムーズに行政につなげられるような仕組み	教職員が、ヤングケアラーの支援における学校の役割や具体的な取組等について理解できるよう、デジタルリーフレットを新たに作成するとともに、福祉の専門家であるユースソーシャルワーカーが相談に乗り、迅速な問題解決をめざす取組を展開しております。
地域のプラットフォームとコーディネーターが必要	政策強化の方向である「多機関連携の具体的実践」において、区市町村、学校、地域の関係機関、支援団体等と連携した包括的ネットワークの構築を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
学校や保育所などと自治体の連携や問題共有、支援	
学校から家庭への細やかな支援	
サポーターの人件費確保・導入	政策強化の方向である「多機関連携の具体的実践」において、福祉・教育等の関係機関において、適切に連携して支援できる人材を育成するとともに、協働のためのノウハウの蓄積を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
当事者がどうしたいか、聞いて対応していく。	政策強化の方向である「ヤングケアラーの実情を踏まえた多面的支援の拡充」において、子供の意向や状況に寄り添った相談支援の拡充に取り組んでまいります。
最適なサポートの仕方はそれぞれ違うので、支援する側のやり方を押し付けないこと	
相談窓口といった受け身な部分ではなく、早期発見できる巡回などそういった仕組みを考えるべき。	政策強化の方向である「『早期把握』と『相談・支援』へのつなぎの強化」において、面談等によるきめ細かな把握と、DXの推進により相談対応力の強化に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
より積極的かつ継続的な支援が必要だと思っている。	
ヤングケアラーの問題が注目され始め、問題に対応するための政策が議論され、ヤングケアラーへの取り組みを強化しやすくなっているので、具体的な施策を整えることが課題として挙げられる。	年度内を目途に「チルドレンファースト」の視点から、未来を切り拓いていくための先進的な取組や横断的な取組を体系的に取りまとめた「こども未来アクション（仮）」を策定してまいります。

【ヤングケアラー】

意見内容	都の考え
支援すると決めたなら早期の対象者掘り起こしを開始してほしい。ヤングケアラー自身が進学や就職など、人生の岐路に立つときにケアラーとしての立場を重くとらえ未来の選択を断念してしまわないように、大人の時間感覚ではなく子ども自身の時間感覚で取り組んでほしい。	政策強化の方向である『『早期把握』と『相談・支援』へのつながりの強化』において、面談等によるきめ細かな把握と、DX の推進により相談対応力の強化に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
声を上げづらい子どもの発見対応	
命をつなぐことを最重要とする医療から、健康寿命の延伸など、関わる人すべての生活を守る医療への移行	政策強化の方向である「ヤングケアラーの実情を踏まえた多面的支援の拡充」において、ヤングケアラー本人も含めた家族全体の実情を踏まえ、きめ細かな支援を展開してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
ヤングケアラーの問題は、家族内・親族内の大人の問題である。ケアをせざるを得ない子どもにフォーカスすることで、浮かび上がることと、かえって見えにくくなることがある。「要ケア状態の方に必要なケアを提供し、家族内の大人・子どもそれぞれの困りごとや問題に対して支援すること」が、ヤングケアラー問題の本質・主軸ととらえている。「児童福祉も高齢も障害も、包括的に受け止め、対応してくれる機能が、市区町村にあるとよい」というのは、理想の区市町村の姿であるが、自治体によっては、そのような体制を構築できる財源やリソース・体力を持たないところもある。ヤングに限らず、ケアラー全体への手厚い対策が求められる。	
すべての子どもが家事を手伝うことを標準にする。	
ヤングケアラーが可哀想な子どもみたいな印象にならないようにする配慮が必要	
社会福祉や子育て費用支援の充実	
子どもが家庭内で負担を強いられることがないように、高齢者介護・障害者介助を公的負担で行うべき。	
児童が家に帰宅してしまうと気を遣わざるを得ないため、ヤングケアラー家庭に対しては学童などを無償化し、物理的に労働から遠ざけるなどの施策	

【ヤングケアラー】

意見内容	都の考え
所得制限の撤廃	子供関連施策における対象範囲の設定に当たりましては、それぞれの施策の目的などを踏まえまして、適切に判断されるべきものでございます。
予算をいかほどつけるのか提示してほしい。	令和 5 年度東京都予算案の概要発表をお待ちください。
ヤングケアラーの当事者と関りががないため、政策について理解できず。	御意見として受け止めます。
都政のあり方から信用できない。	

【ユースヘルスケア】

意見内容	都の考え
学校で、男女の区別なく、互いの身体を尊重できる教育・性教育が行われるように期待	政策強化の方向である「知識の定着に向けた学びの機会の活用」において、現代的な課題や子供の実態を踏まえながら、学習指導要領に基づく指導の充実を図ってまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
性教育の早期実施で人権も学ぶようにする。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
性教育を含めたユースヘルスケア教育の対象が高校生から対象では遅い。月経は早い子では 10 歳前後でも迎えるため、より早い年齢から正しい性教育を生物学的視点や科学的視点からも行うべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
性教育は生きることの教育で、子供たちは自分の体についてよく知る必要がある。特別授業ではなく、日常的に知る方策があれば良い。	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、子供の悩みの解消に資する情報発信に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
若年層が望まぬ出産をして新生児を死なせてしまう事件がとて多いので、避妊方法や、望まぬ妊娠した場合の相談窓口や対応策等、男女問わずしっかり知識を与えてあげてほしい。	政策強化の方向である「相談支援体制の機能強化」において、SNS やオンラインの活用など、相談しやすい環境整備に取り組むとともに、保健師等の専門家による相談対応の充実を図ってまいります。

【ユースヘルスケア】

意見内容	都の考え
気軽にアクセス可能な SNS やオンラインでいつでもどこでも相談できるとよい。	政策強化の方向である「相談支援体制の機能強化」において、SNS やオンラインの活用など、相談しやすい環境整備に取り組んでまいります。
「保護者に知られることとなる保険診療」以外の相談先をどこにどう設置して運営するか。	
養護教諭などへの相談のハードルを下げる、それにより婦人科へ繋いでもらうハードルも下げる。	政策強化の方向である「相談支援体制の機能強化」として、医療機関への受診に向けた助言も含め、学校における産婦人科医による相談対応に取り組んでまいります。
相談するための窓口の敷居を低くし、窓口の存在を広く市民間に周知する必要がある。精神的身体的な気がかりを気軽に医療機関やカウンセラーに相談できるよう広く周知し、カウンセラーへの相談に対するネガティブなイメージを払拭する。	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、相談窓口の周知を図ってまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子供が自らの状況を理解する機会を設けるとともに、スクールカウンセラーを常時配置するなどして、子供にとって相談しやすい環境を整備する。	政策強化の方向として、相談窓口の利便性向上や機能の充実を図ってまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
気軽に相談や受診できるイメージ	政策強化の方向として、相談窓口の利便性向上や機能の充実を図ってまいります。
相談をしてもいいのだという雰囲気を作る。自分も他者も大切にしていこうという大人側の振る舞いをこどもたちに見せていくこと。	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、高校生のみならず、保護者への普及啓発に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
まずは考え方を浸透させるような活動が必要ではないか。	
定期的に啓蒙活動も必要	
子供への情報提供	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、子供の悩みの解消に資する情報発信に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
情報の周知(当事者だけでなく社会全体に)	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、高校生のみならず、保護者等への普及啓発や、情報発信に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【ユースヘルスケア】

意見内容	都の考え
性教育、ナプキンが買えないという貧困層への支援、アフターピルを手に入れやすくすること、インターネットで溢れている性的コンテンツに対する注意喚起など、大人になる途中のあらゆるサポートをすべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
若者の居場所づくりや関係性づくりのサポートも含めた、包括的な取組を期待したい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
スポーツインストラクターによる運動科目の指導	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
専門家を民間から招くか公的機関から招くかで内容も変わると思う。明確に提示願う。	子供の意見・ニーズ等を踏まえ、施策の充実を図ってまいります。
家庭教育でカバーできない部分を学校がカバーすることは重要。 学校の職員を3～4倍程度に増員して余裕を持って対応するべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
若い人のヘルスリテラシーの向上については、ポピュレーションアプローチの観点からすると、やはり義務教育・高校での「学校での保健教育」が、最大の鍵になるというイメージがある。 それを踏まえて考えると、「学校での保健教育の質・量の向上」と同時に、事情があり、不登校や学校での学習がなじまない子どもたちや、高校に進学できないという若い人たちへの教育・啓発等については、ターゲットに届くようにするにはどうすればいいか、焦点をもう少し絞ったほうがいいのではないかと感じた。	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、幅広く普及啓発に取り組んでまいります。また、「相談支援体制の機能強化」において、SNSやオンラインの活用など、相談しやすい環境の整備に取り組んでまいります。
地域のプラットフォームとコーディネーターが必要である。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
精神論に基づかない、科学的エビデンスに基づく対応体制の整備	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、正確性の担保された情報発信を行ってまいります。また、「相談支援体制の機能強化」において、保健師等の専門家による相談対応に取り組んでまいります。
必要時に受診を促すほか、「保護者が、子どもの性に向き合うか」。	政策強化の方向である「健康管理情報の更なる啓発」において、高校生のみならず、保護者への普及啓発に取り組んでまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【ユースヘルスケア】

意見内容	都の考え
現状の共有を求める。	今後、取組等について分かりやすく情報発信してまいります。
金銭的な問題から医療機関への受診をためらわなくていいように、子供の医療費を都全体で無償化してほしい。	都は、子供の医療費助成について、子育てを支援する福祉施策の一環として、所得制限及び通院時の一部自己負担（小中学生は1回 200 円）を設けた上で、市町村が実施する事業に対して補助を行っています。なお、具体的な実施内容は、事業の実施主体である自治体が、それぞれの地域の実情を勘案して定めています。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
現状、子供の医療費には所得制限が設けられている。医療費の高さによるこどもの受診が妨げられないよう、東京都では子供全員の医療費を無料にすべき。親の収入が一定程度あっても、多子世帯のため一人一人の医療に金をかけられなかったり、婦人科や精神科の受診に抵抗を感じたりする問題も存在する。すべての子供が平等に医療にアクセスできるようにすべき。	
精神科など、親に言えない、親の理解が得られないなどで、子ども自身がお小遣いで受診することがあると聞く。そのような場でもきちんと保険適用、医療費無償化が使える仕組みを作るべき。	
親が健康に気を付けていれば自然に健康になるのではないか。	御意見として受け止めます。
わからない。	
都政のあり方から不可能だと思っているので、信用出来ない。	

【日本語を母語としない子供】

意見内容	都の考え
英語でない外国語の学習指導要領に記載の内容を反映させる等、都下の第二外国語を教えている学校と連携する。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
地域のプラットフォームとコーディネーターが必要	子供とその保護者の困りごとや相談に寄り添い、必要な情報や支援が行き届くよう、学校、地域、NPO、行政機関等が連携した支援体制を検討してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【日本語を母語としない子供】

意見内容	都の考え
児童館や冒険遊び場などの、日本語を母語としない子供も多く訪れるような遊びの施設や団体との連携	一人ひとりの実情に寄り添った多面的な支援を展開してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
市区町村との連携	一人ひとりの実情に寄り添った多面的な支援を展開するため、区市町村との連携を視野に入れてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
ボランティアによる通訳の体制を整備する。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
日本語を母語としない子供の対応を学校の教員に任せると、ほかの児童への支援が行き届かなくなるので、人員増員のうえ、取り組みを実施すべき。	
日本語教師の充実を図ってこそ日本語を母語としない子どもたちを救えると思う。	
悩みを伝えるには言葉が重要なので、多言語対応の体制を構築すべき。	
外国人でもついていけるように学校教育の方法の見直しや多様化を実施すべき。	
学校教育における取得度別支援体制の整備	政策強化の方向である「日本語教育・指導の一層の充実」において、都内のどこで暮らしていても、「日常生活に必要な日本語」を体系的に習得できる環境を整備してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
できるだけ日本的な生活慣習に馴染めるようになることが子どもにとって良いと思うので、そういったことを学べる機会の提供を積極的に学校に取り入れられれば良いと期待する。	
放課後に特別クラスを小学校一年から設けて手厚く教えてあげる取り組みを至急行うべき。	
児童向けに学習用で配布する教科書やタブレットを活用した筆談によって日常生活をサポートするのが良い。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【日本語を母語としない子供】

意見内容	都の考え
児童が差別を感じないよう、教育を拡大する。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
進学していない子供の中には、外国人学校などへ通学している子供も一定数いる。都だけで解決できる問題ではないが、多様な学びの形を尊重する方向にも期待したい。	
子どもは友だち同士で言語習得していくと考えられるため、親への支援体制を整える。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
日本語を母語としない子供にとどまらず、家庭自体に対しても支援を実施する。	
幼少期には親へのサポートを行い、思春期には日本にきた子に対して日本語学級を開設する。	
日本語を学べる場を設けて、積極的な支援を続けてほしい。	政策強化の方向である「日本語教育・指導の一層の充実」において、都内のどこで暮らしていても、「日常生活に必要な日本語」（日本の生活文化や慣習の理解を含む）と、「学習に必要な日本語」を体系的に習得できる環境を整備してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
指導者の給与が日本語教諭としての賃金レベルではなく、アルバイトレベル、ひどい場合はボランティアであるとの話を聞く。このような子どもをサポートする仕事は、言語学だけでなく心理学や文化人類学の知識も必要とする専門職である。そのための労働環境の改善と、専門性を持った指導者の養成を求める。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
公立学校による支援に頼らず、退職した教員などからなる施設で対応する。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
一般の公立学校では先生に限界があるため、個別対応できる日本語学校の充実化を図る必要あり。	
入国時審査体制の整備	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
実態調査と受け入れ体制の強化が必須	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【日本語を母語としない子供】

意見内容	都の考え
現状の共有を求める。	今後、取組等について分かりやすく情報発信してまいります。
小学校入学以前に、同じ校区・町内会等で、母語が同じ先輩家庭を交えたミニ・コミュニティを作り、サポートできるような仕組み作り。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
情報や手続きをシンプルにする。そのうえで、日本語を母語としない人も日本語を母語とする人が互いに交流する場を作る。	
移住者への啓発	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
周囲に当事者を理解してもらうための取組が必要	
日本語も母語も不十分になってしまう子が将来就労で苦労し犯罪に巻き込まれる危険性あり。日本語を母語としない子への支援を充実させてほしい。	一人ひとりの実情に寄り添った多面的な支援を展開してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
朝鮮学校への差別敵視をやめさせるための都民啓蒙活動。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
東京都は朝鮮学校に通う子供たちへの補助金、高校生への授業料無償化など行っていない。チルドレンファーストの趣旨は東京都全ての子供たちに適用されるものと思う。ぜひ朝鮮学校も同じ施策で進めていただきたい。	御意見として受け止めます。
朝鮮学校調査報告書の見直し。朝鮮学校を始めとした民族学校（中華学園、韓国学園など）やインターナショナルスクールを対象とした調査やヒアリングの実施。上記の学校に通う子どもやその保護者へのヒアリングの実施	
伴走者が必ずいる仕組み	子供とその保護者の困りごとや相談に寄り添い、必要な情報や支援が行き届くよう、学校、地域、NPO、行政機関等が連携した支援体制を検討してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
集団化しないようにすることが重要。	御意見として受け止めます。
外国人の移民受け入れ反対	御意見として受け止めます。
都政のあり方から信用不可能。	
日本人の子供への支援を優先すべき。	

【ネウボラの仕組み】

意見内容	都の考え
ネウボラの仕組みを実現する上で、海外で重要な役割を果たしているのは”助産師”ではないかと考えている。多様なつながりの中心には、「妊娠期から助産師との関係性を育み、その助産師のもとで出産をする」という部分も是非盛り込んでいただきたい。（実現する上で人が足りないのだとすれば、それは労働環境や人材育成に問題があると考える。）	全ての子供・子育て世帯とのつながりを重視した新たな仕組みの構築を目指してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
家族の健康状態や経済状況等を把握して、的確な助言をする・必要な福祉制度を紹介して繋ぐ等の機能も持たせるのであれば、無資格者が担当するのも難しいと思う。	
海外の取組と成功・失敗事例を多く研究し、ちゃんと目の前の個人を見て対応をできる人間の育成と早期支援を実践すること	全ての子供・子育て世帯とのつながりを重視した新たな仕組みの構築を目指してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
保健師など専門職以外の多様な人材の活用については、児童館や冒険遊び場など、子どもが保護者と遊びに来る場所での人材の活用が可能であれば、予約を取らなくても、インフォーマルな関係の中で相談や話を聴いてもらう機会を創出できるため、ネウボラの仕組みの実現に期待ができる。	取組の方向として、全ての子育て家庭とのつながりを重視した、新たな人的支援の仕組みの構築を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
リアルで何気ない話を出来る居場所作り。	
こうした取組をボランティアではなく有償化、職業化してほしい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
現状では、特別な事情がなければ、自治体の保健師との接触があるのは、乳幼児健診等の「点」であり、ネウボラ的な仕組みがあれば、助かる親子もいると思う。しかし、ネウボラ的な仕組みの担当者の資質・技能をどう担保するかや、担当者の養成方法、担当者と合わなかった場合の交代システムや、担当者に問題があった場合の苦情受付体制など、日本、東京都の実情に合った仕組みを構築するまでに、どのくらいかかるのだろう、という疑問はある。	取組の方向として、全ての子育て家庭とのつながりを重視した、新たな人的支援の仕組みの構築を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【ネウボラの仕組み】

意見内容	都の考え
東京都でベビーシッター助成や産後家事育児支援制度を作っていたが、基礎自治体が制度を導入してくれないので結局活用できず困っている。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
まずは都と区市町村の情報がまとまって集められる場所作りをすべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
地域のプラットフォームとコーディネーターが必要。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
転居・転勤しても継続して見守ってくれるシステム	全ての子供・子育て世帯とのつながりを重視した新たな仕組みの構築を目指してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
助産師・保健師が真に親身になって欲しい。上部だけのアドバイスなら不要	全ての子供・子育て世帯とのつながりを重視した新たな仕組みの構築を目指してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
【乳幼児期の集団生活】とも関わるが、フィンランド型に近いネウボラの仕組みを作るなら、「育児が大変なのですね、では、まだ保育園幼稚園に通っていないお子さんを預かりますね。夜のルーティンの大変な時間に、ベビーシッターを派遣しますね。」と言えるシステムを先行して整備しないと、「ただお話をして励ましてくれるだけの人が訪問してくる。保護者側のメリットが薄い」になりかねない。	
愚痴を聞いてもらうだけでは根本的解決にならないので、専門的アドバイスや家事育児支援ヘルパー派遣など具体的な支援を行ってほしい。	
とても心強いが、相談相手となる人との相性が心配と感じた。「子どもは地域で育てる」と胸を張って言えるくらい、一部の子育てに関わる人たちにお任せするのではなく、社会全体で子どもを見守る雰囲気になってほしい。	取組の方向として、全ての子育て家庭とのつながりを重視した、新たな人的支援の仕組みの構築を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子育て中はワンオペに陥りやすい。妊娠出産を母親の個人的な出来事ととらえない視点が必要。多くの人があなただけを助けるというアピールをいただきたい。独りよがりの子育てにならないためにも、家庭に他人が入ることをサービスとしてとらえられるといいと思う。	取組の方向として、全ての子育て家庭とのつながりを重視した、新たな人的支援の仕組みの構築を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子育て世代の家庭に積極的に関わっていく姿勢が必要	

【ネウボラの仕組み】

意見内容	都の考え
兵庫県明石市のおむつ定期便など国内事例でも参考になる取組はあるので、他自治体で行われている優れた施策をどんどん取り入れて実施していったほしい。	幅広い分野の有識者へのヒアリングや、国内外の先進事例の調査などを行い、新たな仕組みについて具体化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
「乳幼児を育てる世帯を継続的に見守る」「何かあればＳＯＳをキャッチして行政の保健・福祉部門につなぐ」が目的で、孤立防止に即効性のある事業ということなら、明石市の「おむつ定期便」を、都全域で展開するべきだと思う。この事業なら、保健福祉の有資格者でなくても、採用可能である。こういった事業の場合、おむつ・ミルク卒業後、どのように継続して関わるかは、今後の課題なのかもしれないが、引き続き、明石市等先進的な自治体の動向も参考にしていけるべき。	
相談先を多様化し、東京都で専門家を雇用して相談窓口を整備すべき。	取組の方向として、リアルとバーチャルの双方の視点を取り入れた仕組みの構築を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
バーチャルでもリアルでも選べる仕組み	
SNS のようなバーチャルでの支援は民間に任せ、都政はリアルでの支援を実施すべき。	御意見として受け止めます。
保育園までいいが、小学生以上の支援をきちんとしてほしい。放課後に学校の校庭で楽しく遊べたり調べたりする環境を整える必要がある。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
現状の共有を求める。	今後、取組等について分かりやすく情報発信してまいります。
現在のパパママ応援の継続	引き続き事業を推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
定員空きがあった場合に、共働きでなくとも保育園入園可能とすれば、そこがコミュニティになると思う。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
親が忙しいと子どもを見てあげられない家庭がある。子どもの為にも、親の働き方も少し変えてほしい。	
子育て費用支援の充実	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【ネウボラの仕組み】

意見内容	都の考え
切れ目のない支援を所得制限なし、兄弟児の年齢制限なし、かつ無料で実施すべき。	子供関連施策における対象範囲の設定に当たりましては、それぞれの施策の目的などを踏まえまして、適切に判断されるべきものでございます。今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。
人口流入の変動を加味した政策パッケージとすべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
日本で実施できそうなプランをとにかくたくさん挙げてみる。	幅広い分野の有識者へのヒアリングや、国内外の先進事例の調査などを行い、新たな仕組みについて具体化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
少子化対策失敗の原因究明	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
わからない。	御意見として受け止めます。
珍奇な用語は使わないこと	
今までの都政のあり方から無理だと考える。期待していない。	
児相や DV シェルターなど行政のやることは子どもの権利を制約するから危険	

【乳幼児期の集団生活】

意見内容	都の考え
保育園に入るハードルが高すぎる。 未就園児に注目していただけたのであれば、核家族片働き世帯の一員として、とてもありがたく思う。ワンオペ育児がきつい、という親側の事情・都合のみならず、「我が家の未就園児も、きょうだいと遊ぶ以外の機会がほとんどなく、保護者として、心苦しい」という日々を送っている。子ども政策として、「定員割れ保育園での、一時保育枠増員」等を、明確に示していただきたい。なぜ、「未就園児・無園児の、曜日固定保育・一時保育の機会の増加」というような文言が、目立たないのか？その点は、理解に苦しむ。 就労の有無に関わらず保育園の一時保育の利用拡大が必要（今後保育園過多になると予想されるため、保育園運営にもつながる）。乳幼児だけでなく、親の孤独や産後うつ予防にも効果があると思うので、気軽に保育園等の施設が利用可能になることが必要 専業主婦でも週2回は預けられるようにしてほしい。 保育園全入。所得により保育料を決めるのであれば、全入を可能にするべき。 保育園の増設、児童館や一時預かり施設の拡充	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。 頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
区立の学童の定員増	
保育士の増員	
保育士の配置基準の見直し。何歳児何人に対し保育士何名など、今の基準は0歳～6歳まで子供一人ひとりを丁寧に保育できない基準だと思う。	
保護者の心理的不安が子どもにマイナスの影響を及ぼすと同時に、保育者の心理的不安も子どもにマイナスの影響を及ぼす。北欧と比べると、保育者が1人でみなければいけない子どもの数が数倍である。このような状況下では、本当の意味で質の高い取り組みは難しいと考える。	
	より多くの区市町村で多様な子供の居場所づくりが進むよう積極的に働きかけてまいります。 全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。 頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【乳幼児期の集団生活】

意見内容	都の考え
区内は未就園児の遊び場が狭く少なく利用制限があるので集団活動できる場を増やしてほしい。	取組の方向として、子供の最善の利益を基軸において、乳幼児期から子供が多様な他者と関わり合うことができる新たな仕組みの創出について検討してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
保育園の開所時間の見直しをしてほしい。これは社会全体、働く保護者の勤務時間等、考えていかなければならないと思う。例えばスウェーデンの保育時間は短い。乳幼児の生活リズムを整える等、都内の長時間の集団保育はどうなのか考えてほしい。保護者は自分の時間が欲しかったり、仕事がやりたいのかもしれないが、子供は保護者を求めている。言葉が未熟な子供の気持ちを考えてほしい。	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子どもに関わる多くの人に、発達グレー、HSC についての学習機会を望む。小学校に入るまでに療育につながる必要がある	
集団生活のために親子を集める側の人材の育成	
乳幼児教育に関する人材の育成援助	
地域のプラットフォームとコーディネーターが必要	
保育園・幼稚園の質については、自治体の現地立ち入りの監査・指導等を、緩めないでほしい。	
場所の提供だけでなく、成長につながるプログラムも多数実施してほしい。（リトミックや工作など）	取組の方向として、子供の「伸びる・育つ」を応援するため、非認知能力の醸成に資する幼稚園、保育所等の取組について多角的なサポートを検討してまいります。
外遊び型子育てひろばで入園前の子たちの集団生活体験	取組の方向として、子供の最善の利益を基軸において、乳幼児期から子供が多様な他者と関わり合うことができる新たな仕組みを創出してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
集団に対応できない子供もいるので、個別のケアも検討してほしい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【乳幼児期の集団生活】

意見内容	都の考え
子育て世代の家庭に積極的に関わっていく姿勢が必要	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。 頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
幼稚園、保育園によっては、「首から上の傷は 1 ミリであっても保護者に報告をして、謝罪をしなければならない」という中で保育、教育をしなければならないという状況にある。そのため、貧富の差を問わず、非認知能力の育成を推進していくことには大きく期待しているが、保護者を含めた社会の許容量を増すための普及啓発、職員への研修がセットになっていることで、実現に近づくのではないかと期待する。	
保育時間に達しないこどもへの保育、保育の質維持のためにも待機児 0 となって維持が難しい保育園経営への補助金、補填できる政策	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。 頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
都内でも、一時保育や、要支援家庭の支援に尽力してきたはずの公立保育園が、次々と廃園になっているが、そういった役割を新たに引き受けられる民間園がどれほどあるのか？も疑問に思う。小金井市では、「公立保育園の老朽化園舎の建て替えができないのは、国や都からの補助金がないから」「民間園の定員割れを防ぐために、公立園を縮小する」と主張している。しかし、「保護者の就労のための通常保育が満員」を経営の基準にしている、株式会社の新規民間園では、一時保育枠を作るためのスペースや余力がない。不採算だが、社会的意義のある福祉的保育事業を行っている園への補助や支援をしないと、未就園児の集団生活の機会は、確保できないと思われる。	
保育園や幼稚園の先生の待遇改善にも取り組んでもらいたい。先生の質が子ども達の生活の質につながると思う。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
コロナ禍で、乳幼児期の集団生活の継続自体が脅かされ、一時保育等も難しい課題となっているが、保育利用前にも受けられるような迅速 PCR 検査の拡充や、保育職員の定期 PCR 検査、保育施設の換気設備の整備義務化等、なんとか対応していただきたい。	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。 頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【乳幼児期の集団生活】

意見内容	都の考え
無園児や、その親子の生活環境の実態調査を行うべきである。	今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。
23 区で 0 歳児の空きがでたとニュースが出ているが、喜ばしいことだと思う。一時保育や、共働き世帯以外でも子供を預けられる安心感はネウボラの仕組みとも多少重なる点ではあるが、より多くの乳幼児に就学前に集団生活をする機会につながると思う。	御賛同の御意見、ありがたく受け止めさせていただきます。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
まず、乳幼児期に適切な集団生活とは何かを丁寧に出す事。いきあたりばったりの表面的な解決法ではなく、時間がかかったとしても根本的改革、改善、質の高い集団生活を目指す。	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
区立の学童を希望しても入れなかった世帯への民間学童費用補助（所得制限なしで）	御意見として受け止めます。
保育所の増加よりも、地域の子育てひろばへの財政支援をしてほしい。	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
シングルマザー、シングルファザー、日本語を母語としない親など、様々な立場・エスノセントリズムを考慮した政策パッケージとすべきである。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
地域によっては「収入格差」が人的関係に影響を及ぼさないようにする配慮が必要だと思う。	
小さいうちは個人を大事にしてほしい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
少子化対策失敗の原因究明	
東京都には無理	御意見として受け止めます。
ここにリソースを割くのは時期尚早であり、幼稚園、保育園の競争に委ねるべき。	

【子供目線によるセーフティ・レビュー】

意見内容	都の考え
セーフティ・レビューの仕組みは、国が、こども家庭庁マターで、しっかりと構築していったほしいが、早いほうがいいので、都が率先してシステム化を検討していただければ、よいことだと思う。市区町村単位では、役所の担当部課や首長、子ども関連機関・施設の、「セーフティ・レビューをどのくらい重視しているか、仕組み化にどのくらい意欲があるか」の差がありそう、と想像している。「都にやる気があっても、市区町村にやる気がなければ、進まない」という施策では、意味がないので、しっかりと進めていただきたい。	子供の事故を未然に防ぐためには、多様な観点からの取組が必要です。今後とも、区市町をはじめ、産官学民で連携を図り、社会全体で子供の事故予防の仕組みを構築して参ります。
消費者庁との連携も検討願う。	
地域のプラットフォームとコーディネーターが必要	
なんでもかんでも管理者の責任にされてしまう状況では、禁止を減らすことは難しい。地域住民が”お客様”ではなく一緒にその場をつくっていく”当事者”となれるような仕掛けが必要である。コミュニティーワーカー、プレイヤーなどの配置が不可欠であろう。	子供の「セーフティ・シティ・東京」の実現に向けて取組を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
こどもが感じたこと、考えたことを、素直に聞いて受け入れること。大人のやり方を押し付けないこと	子供の「セーフティ・シティ・東京」の実現に向けて取組を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
押し付けではなく、子どもが自由に遊びながら学ぶあるいは、能力を身につける方法を実践する。	
子どもの声をあげられる仕組み	
ヒヤリハットの収集、周知	取組③「子供の事故予防のための環境構築」において、事故予防の具体的方策を広く普及させるため、戦略的な広報を実施してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
動画配信していく。	

【子供目線によるセーフティ・レビュー】

意見内容	都の考え
社会全体が安全な目を持てるような家づくりを検討してほしい。	子供の事故を未然に防ぐためには、多様な観点からの取組が必要です。頂いた御意見を参考に、ソフト・ハードの様々な面から子供の安全策を検討してまいります。
レビューをどう活かすか、という点については、公共施設や公園等だけでなく、住宅施策にも反映してほしい。間取りや家屋の細かい仕様が既に決まっている建売住宅や賃貸住宅等では、子どもの事故防止のために、いろいろと事故防止グッズを揃えると、それなりの出費になる。	
積極的安全管理、つまりちょっとした危険に触れておくからこそ大きな事故が防げる、という考え方に賛同したい。公園も学校も禁止看板であふれているから、何が本当に危ないのかを身を持って知る機会が少なくなっている。また、外遊びではなくゲームに時間を費やす子どもが増え、体力低下を招いている。このような理由で怪我也も増えているのだとすれば、まずはその"禁止"を減らすことが必要ではないだろうか。	子供の「セーフティ・シティ・東京」の実現に向けて取組を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
公共の場所だけでなく、お店や駅など民間の場所においても子供の安全確保の取組を行うよう、東京都で推進してほしい。	子供の「セーフティ・シティ・東京」の実現に向けて取組を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
事故が発生した時の状況分析、原因分析をしてほしい。	子供の事故については、概観的な検証のほか、事故につながる子供の行動特性について、AI等の最新技術も活用して分析・シミュレートを実施してまいります。
車内への子どもの置き去りによる死亡事故もあるので、それを防ぐシステムや商品の開発、購入時の補助などがあると嬉しい。	子供の不慮の事故を防ぐためにも、頂いた御意見を参考に事故防止に資する実効性のある仕組みを構築してまいります。
転落防止などの対策補助	
入力する事務員の負担にならないレベルとすべきである。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
障がい者への対応の拡充	あらゆる子供の「セーフティ・シティ・東京」の実現に向けて取組を進めてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
社会生活を送る上で SNS などインターネット上の犯罪について早期教育を行う。	子供の「セーフティ・シティ・東京」の実現に向けて、子供が事故に遭うリスクを減らし安心できる環境を社会全体で構築してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【子供目線によるセーフティ・レビュー】

意見内容	都の考え
不勉強につきわからない。	御意見として受け止めます。
教員の資質が悪いので困難	
市区町村に補助金を配分するだけでよい。	

【今後の推進チームの組成について（子供の笑顔につながる「遊び」の推進）】

意見内容	都の考え
子どもに寄り添い、遊びを阻害するものから子どもを守るために働く人材を配置した外遊びの場を、各都立公園の一角に設置してほしい。	政策強化の方向である「既存スペースの利活用」も含め、子供達が伸び伸びと遊び、多様な体験ができる環境づくりを推進してまいります。
資料では遊び推進としてイベント実施が多く挙げられているが、子どもが日常的に遊ぶ場所の拡充もぜひお願いしたい。土地がなく仕方がない面もあるものの、都内では園庭がない保育園が多く、子どもがのびのび遊べる環境が整っていないように感じる。園庭を広くする、公園や児童館を増やす、といったことも行っていただきたい。	
プレイパーク、外遊び型子育てひろばの拡充	
遊びの多様性を認識し、イベントに限らず一見地味な遊びの場も用意すること。大人の求める笑顔や元気を強制しないこと。	
築山などがあり、木々や自然に触れることができる公園を増やしてほしい。固定遊具がなくても、子供は場所があれば遊べると思う。	
私が住んでいる江戸川区はとても公園が沢山あって充実していると感じる。雨天時のために室内で自由に遊べる場所がもう少しあっていいかなと思う。	
物理的な遊び場の確保を同時進行していただきたい。	

【今後の推進チームの組成について（子供の笑顔につながる「遊び」の推進）】

意見内容	都の考え
地域のプラットフォームとコーディネーターが必要	子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取組を推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
Play Street については、渋谷区の「どこでも運動場プロジェクト」などがあり、今後の展開に大いに期待できる。また、Play Street が推進される際には、日本で推進されているウォークアブルシティのようなまちづくり団体の主催ではなく、イギリスのように、住民主体による取り組みを許容できるような仕組みづくりが必要と思う。その一方で、日本はイギリスとちがい、道路使用許可の管轄が警察署であるため、警視庁による理解と各警察署への周知が欠かせないと思われる。また、イギリスでは、70 を超える自治体が支援要綱を作成し、最大週 1 回 3 時間までの道路封鎖であれば、年 1 回の申請でよしとする規制緩和を行っている。そうした仕組みづくりに東京都として取り組んでももらえれば、大いに東京でも普及することが期待できるのではないだろうか。	政策強化の方向である「既存スペースの利活用」において、公共空間・施設等の更なる利活用を図り、子供の意見を取り入れながら、ニーズや関心に応じた遊び場づくりを推進してまいります。
練馬区では、親子の初めての外遊びを応援する外遊び型子育てのひろば「おひさまぴよぴよ」や、親の就労に関わらず小集団で集まり親も子ども一緒に自然の中で遊ぶことを通して子どもを知り共に育っていく「おやこ森のようちえんおひさまとことこの活動」を行っている。そういった取り組みをどの区市町村も広げて下さることを願っている。	子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取組を推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
議論を重ねるより、実際に子供の教育事業を行っている組織・企業と組んで、トライ＆エラーを始めるべき。	

【今後の推進チームの組成について（子供の笑顔につながる「遊び」の推進）】

意見内容	都の考え
インストラクターを増やしていく。	政策強化の方向である「多様な経験の機会の創出」において、異年齢の子供や家族以外の大人など、幅広い人的交流を通じて、様々な遊びや体験ができる機会を創出してまいります。
プレイワーカーの養成については、日本でも育成講座を開講している団体があり、子どもの遊びに直接関わる児童館職員や放課後児童クラブ職員をはじめとして、プレイワークを理解していることでより効果的な関係性が作れると思われる。公園管理職、青少年委員、児童民生委員などの人たちに向けても、そうした専門性を学んでほしい。それによって、「遊び」と称して大人が子どもにさせたいことを一方的に提供するようなプログラムばかりになる事態は避け、基本的自尊感情を子どもが自ら育むような「遊び」を守る機会を子どもたちに保障できるのではないかと考える。	
委員からの意見として、「遊びを提供する大人や、遊びのリーダーと言われる人たちを増やしていくことで、遊びの多様性や安全性の向上にもつながる」とあるが、遊びを提供したり、遊びをリードしたりすることは、往々にして子ども目線ではなく大人目線になりがちである。「プレイ・ワーカー」についてしっかりと調べてほしい。 日本においてもプレイワーカーの研修等を展開している団体があるので、ぜひ声を聞いていただきたい。	
このような活動を推進できる人や組織は、日本には多くないと考えている。また、そのような専門家の労働環境はよいとは言えない。保育士同様、スキルは持っていても、生活のために今はその職業を選んでいない人も少なくない。都の動きに合わせてこういった遊び場をサポートできる人材が専門職として認知され、労働環境も改善されることを期待する。	
地域の大人とも繋がる施策	
地域繋がり希薄化が加速しているため、プレーパークや練馬区のおひさまびよびよを都内へ拡充、妊娠期からのフォローなど意識していくべき。	

【今後の推進チームの組成について（子供の笑顔につながる「遊び」の推進）】

意見内容	都の考え
子どもにとっての『遊び』を知り、最適なチーム編成が必要	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
チームメンバーを偏らせないで編成すること	
学童保育の人員の一層の充実	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
空き家や空き施設の活用	子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取り組むを推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
近年高温の日も多く、公園などで遊具が使えないことが多い。遊具、砂場にも日陰を作る取り組みをして欲しい。	
子どもたちの外遊びの大きな阻害要因となっている、管理責任追及を恐れた過度な禁止文化に、保護者・学校・保育園・幼稚園・公園管理者が大きく巻き込まれているため、子どもの育ちに必要な危険への接触の機会が大きく失われている。これは、未就学児の遊び体験の不足にも大きく影響している。東京都には、この文化を変えていくような実態調査や普及啓発、ガイドラインの作成などの取り組みが必要と考える。この点については、イギリスの事例が多くあり、参考になるのではないかと思います。そうでないと、「遊び」の推進に関する本質的な効果は期待できないのではないだろうか。	
校庭開放	政策強化の方向である「既存スペースの利活用」において、公共空間・施設等の更なる利活用を図り、子供の意見を取り入れながら、ニーズや関心に応じた遊び場づくりを推進してまいります。
子どもが自分の個性感性に合った遊びを自分で見つけいくためのサポートに限ること。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

【今後の推進チームの組成について（子供の笑顔につながる「遊び」の推進）】

意見内容	都の考え
まずは都と区の情報がまとまって集められる場所作りをすべき。 東京都には、個別単発のメニューを発信するのではなく、イギリス政府や自治体によって実践されている、子どもの遊びに関する総合的な基本計画やガイドラインの作成、「London Plan」のような長期的都市計画の中への「遊び」の位置付け、国内全自治体による、3年毎遊びの環境アセスメントおよびアセスメントの結果に基づいた計画策定の義務化などを打ち出していただくことで、大きな視野で「遊び」の推進が必要と思われる。	子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取組を推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
地域住民の理解の向上に向けた取組	
遊びには時間が必要。まずは子どもの時間の使い方を調査して欲しい。時間の格差や遊びの情報の格差、いろいろ見えると思う。	今後の政策強化の方向である「エビデンスに基づいて政策を立案・展開」において、子供に関する実態や意識の把握を通じ、子供が直面している課題を明らかにし、政策へ反映してまいります。
有識者だけでなく、子育てしている人にも意見を聴取してほしい。	
現在の日本ではプレーパーク（冒険遊び場）が最も有効と考えるが、現状は遊び場自体が貧しい中で苦しんでやっている。もっと投資と研修が必要	子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取組を推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
児童館などのサードスペースの維持管理やプレーパークへの支援など、異年齢での居場所機能への補助制度	
冒険遊び場をやりたいところに、サポートする。	
エビデンスとして、友達と遊ぶ割合が減っていることを挙げているが、少子化も関係しているが、習い事をしている子どもが多い＝身近な公園等で自由に外遊びをする時間が少ないということも課題として着目する必要がある。もっともっと子どもの育ちには自由に遊ぶ時間が必要であるという価値観の発信が必要である。	
長期休みや週末などで、公的な催し物があると嬉しい。またそれが子育て世帯に知らせが届くように、各自治体の区報や保育園・幼稚園・小中学校などでもチラシを配るなど周知にも力を入れてほしい。	

【今後の推進チームの組成について（子供の笑顔につながる「遊び」の推進）】

意見内容	都の考え
結婚、出産が特権化している社会の改善に向けた取組	御意見として受け止めます。
改善願う。	
母親による児童虐待を阻止してほしい。	
教員の資質が悪いので、子どもの被害が増えるだけ。	
市区町村で養われた人材とノウハウに任せるべき。	

【官民一体となった「こどもスマイルムーブメント」を戦略的に展開】

意見内容	都の考え
どうやって多くの民間の事業を利活用していくか。結びついていくか。	今後の政策展開の方向である「参画企業・団体によるアクションを促進」において、企業・団体の主体的活動に資するプラットフォームとしての仕組みを整備してまいります。
民間の視点を活かして欲しい。	
NPO との協働	
色々な立場の人達でとにかく話し合う。	
子供中心の組織	こどもスマイルムーブメントでは、社会のあらゆる主体との連携の輪を広げ「子供の笑顔があふれる社会」「安心して子供を産み育てられる社会」の実現を目指しています。また、子供と都政の玄関口となる東京都こどもホームページにおいて、東京の魅力発信のほか、子供たちが困っている事や悩んでいる事について相談できる窓口を紹介しています。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
生きていること、死ぬこと、なぜ人は傷つけ合うのか、現代社会の問題を解決するにはどうすればいいのか、悩んでいても話せない子がいると思うので、良質な本や映画、表現に自由に触れられる場を提供する。	

【官民一体となった「こどもスマイルムーブメント」を戦略的に展開】

意見内容	都の考え
積極的でなくても誰でも参加しやすい気軽なイベントや体験をたくさん用意する。	こどもスマイルムーブメントでは、参画企業・団体と連携し、子供の笑顔につながる発信力の高い象徴的な取組を戦略的に打ち出し、事業展開をしております。令和４年の夏休み期間には、都及び参画企業・団体による２００を超えるイベントやオンラインコンテンツを「こどもスマイル大冒険」として展開し、その集大成として子供たちの体験発表の場を設けるなど、子供の成長を応援する取組を展開しました。今後ともこうした取組を継続してまいります。
育業も良いが、子育ては十数年続くため、長時間労働をとにかくなくす働き方改革が必要である。子どものいる社員を長時間働かせることは家族に皺寄せを与えていることをもっと理解すべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
母子家庭の貧困という課題もあるので、雇用を増やすことで一人一人の働く時間を短くしてほしい。	
子どもの城のような施設や、医療、教育、遊び、生活等、多角的に子どもの育ちをサポートする施設を作る。	社会のあらゆる主体との連携の輪を広げ「子供の笑顔があふれる社会」「安心して子供を産み育てられる社会」の実現を目指してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
小中学生が学習や遊べる居場所をつくることが優先である。	
企業に対してだけでなく、全世代の都民に対して「子供は社会の宝であり未来の日本を支える人材である」「社会全体で子どもをサポートする」という意識啓蒙をお願いしたい。電車でベビーカーが邪魔だとののしられたり、公園や保育園で遊んでいるとうるさいとクレームが入ったり、自治体の子供向け施策を行うと「子育て世帯だけずるい」という声が必ず上がる。もちろん暖かい目で見てくださいる方もいるが、子供を邪魔物扱い、お荷物扱いする空気感を払拭していただきたい。	今後の政策展開の方向として「コア・アクションの推進」でお示ししているとおり、「全ての子供たちの可能性を大切に育んでいく」という理念を社会に普及するため、子供の目線を基軸に捉えたリーディングモデルとなる取組を展開してまいります。
ホームページだけではなく更なる発信、認知	今後の政策展開の方向として「こどもスマイルムーブメントの普及啓発」でお示ししているとおり、官民一体となった活動体として更に認知度・付加価値を高める取組を進めてまいります。

【官民一体となった「こどもスマイルムーブメント」を戦略的に展開】

意見内容	都の考え
単発の取り組みではなく、月ごと1年単位で関わりが生じるような活動をしてもらえるといいと思う。	有識者、経済団体、民間企業・NPO等により構成される官民推進チームにおいて、戦略的なムーブメントの展開に向けた議論を行い、効果的なアクションや情報発信を具体化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
兵庫県明石市の取り組みのように、名前ではなく実態のある取り組みを期待する。	
一般市民が近所の道を有効活用して遊び場にする Play Street のように、市民性醸成につながるような活動を、都として支援する必要があるのではないか。それが結果的に地域の“つながり”を作ることになり、その他諸々の施策を機能させる可能性があると考えます。	
集団の中で過ごすのが苦手な子、体を動かすのが得意ではない子にも配慮する。	今後の政策展開の方向として「コア・アクションの推進」でお示ししているとおり、子供の意見を聴き、取組に活かすための仕組みを整備してまいります。
早期からの「人権教育」を学ぶ場を作る必要がある。それがないため日本は世界からジェンダー平等の視点に置いて先進国最下位となっている。非常に恥すべき実態である。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
まず金銭的な部分、教育の機会の喪失の心配を解消するところからではないか。	こどもスマイルムーブメントでは、社会のあらゆる主体との連携の輪を広げ「子供の笑顔があふれる社会」「安心して子供を産み育てられる社会」を目指した取組を進めてまいります。
学童保育などの場で人気のある遊びなど、現場の意見をどんどん取り入れる。	今後の政策展開の方向として「コア・アクションの推進」でお示ししているとおり、子供の意見を聴き、取組に活かすための仕組みを整備してまいります。

【官民一体となった「こどもスマイルムーブメント」を戦略的に展開】

意見内容	都の考え
全ての子供を対象としているのであれば、先日の 23 区で医療費の負担に所得制限がなくなったように、あらゆる子育て支援への所得制限をなくすべきだと思う。特に東京都では私立高校への授業料無償化の世帯年収のボーダーは都内在住では対象外となる世帯が多数見受けられ、多子世帯ほどその負担は大きくなることが明白である。全ての子供の可能性を大切に育むためにも、所得制限なく全ての子供が差別されることなく恩恵を受けられる制度作りをお願いしたい。	子供関連施策における対象範囲の設定に当たりましては、それぞれの施策の目的などを踏まえまして、適切に判断されるべきものでございます。今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。なお、私立高校の授業料負担軽減においては、扶養する 23 才未満の子供が 3 人以上いる多子世帯に対して、世帯年収に関わらず公立高校授業料額の半額相当を補助しています。
年少扶養控除の復活	御意見として受け止めます。
東京の「どこ」に魅力や愛着を持てばゴールなのか、明記すべきである。	御意見として受け止めます。
内容がよくわからない。	
官がしっかりしていないのに、民に頼りすぎ。官がまずしっかりすべし。	
ネーミングから考え直したらどうか。	
教育工場の子どもロボットにされそうで心配である。	
官民が児童虐待をやめればいい。	

【未来を担う子供との双方向コミュニケーション・情報発信の強化】

意見内容	都の考え
すべての子どもが気軽に意見出来る場を作る。	今後の政策展開の方向である「子供の意見を聴く仕組みの構築」において、子供の意見をデジタルツール等を使用して迅速かつ容易に収集し、関係者が共有できる共通基盤を整備してまいります。

【未来を担う子供との双方向コミュニケーション・情報発信の強化】

意見内容	都の考え
匿名で本当に困っていることをヒアリングする機会があるとよい。政治家と都内優秀校に通う子との表面的な会話は意味がないと思う。親が学費出してくれない、虐待など子どもが声を上げやすい仕組みを作るべき。	今後の政策展開の方向である「子供の意見を聴く仕組みの構築」において、子供の意見をデジタルツールを活用して幅広く聴取することや、都政関係者が直接聴取できる機会を設けてまいります。
東京都が実施することで、体験できる人数が限られてしまうことの懸念。より多くの方が参加できる工夫。	未来の東京を担う子供たちが、東京に魅力や愛着を感じ、都政に興味・関心を持つことができるよう、子供との双方向のコミュニケーションや子供たちへの情報発信を強化してまいります。
成人年齢が引き下がり、投票ができるようになり、私たちが子どもの頃より良くなっていると思うが、子どもが法律や政治に触れる機会の提供をたくさんしてあげたい。議会でどんな議論がされてどんな風に社会に反映されているのかがよく見えると興味が湧きそうである。	今後の政策展開の方向である「子供の意見を聴く仕組みの構築」において、子供の意見を都政関係者が直接聴取できる機会を設け、収集した意見を都の施策づくりに取り込む契機とし、子供自身の都政への参加意識や関心をより深めるよう進めてまいります。
まず日本と世界の現状をちゃんと伝えるメディアが必要で、そういう情報をもとに政治や社会のことをこどもたちと話せる場がほしい。大人が隠し事をしているのでは信頼されない。	
子供の意見を聴くことができる人を増やすための、養成の仕組みづくりが必要	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
ヨーロッパでは、教師が子どもの前で政治的思想を表明した上で、「でも反対意見としてこういった思想もある」と複数の立場についてきちんと伝えると聞く。一方で、日本では「中立」であろうとするが故に、テキストの内容が「正解」であると教える人が多いように思う。子どもの市民性育成を考えるとのであれば、教師の育成も同時に必要であろう。	
SNS、テレビ、映画、雑誌等幅広く発信。子育て世帯以外にも知ってもらう。	未来の東京を担う子供たちが、東京に魅力や愛着を感じ、都政に興味・関心を持つことができるよう、子供との双方向のコミュニケーションや子供たちへの情報発信を強化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
今でもいろいろな施策を実施していただいているが、イマイチどこから情報を得てよいのか分からない。情報発信の一元化、分かりやすい方法など検討をお願いしたい。	
いろいろなツールの使用	

【未来を担う子供との双方向コミュニケーション・情報発信の強化】

意見内容	都の考え
これまでの公教育で特に弱かった発信力、双方向のコミュニケーションを強化することが公教育の質を大きく上げるポイントになると思う。私立校に負けない、魅力ある公立校をぜひお願いしたい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
長期の休みを利用したボランティアの受け入れ体制を整えるなど、中高生の社会活動を充実させてほしい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
この政策パッケージを学校現場にどのように落とし込むかを明確にすべきである。	
子どもを育てている親との双方向コミュニケーションの方が大事である。子どもとの対話ではなく、子育て世代との対話をお願いしたい。	
子どもの遊び場やコミュニケーションをとる機会作りを地域や企業を巻き込んで行う。	
遊び方だけでなく、生きていくのに必要なことを学習する場も必要。	御意見として受け止めます。
開催が目的になっているので、なんのために直接聴取するのかなど目的を明確化すべき。	
情報発信においても、根底となる「人権」を無視して発信することは、世界から大きく遅れを取っていることを認識する場が必要。	
若い人を抜擢する。高齢者は口出ししない。	
内容がよくわからない。	
双方向ではなく、子どもの話を聞くということに重点を置くべき。	
普通にデバイスを買えば勝手に高まっていく。	
都政に期待していない。	

【区市町村と緊密に連携し、地域の子供の笑顔につながる取組を推進】

意見内容	都の考え
自治体任せにせず都全体をあげて充実したものを作って欲しい。	子育てに全力で取り組む区市町村の先駆的・分野横断的な取組や、こどもスマイルムーブメントに参画する企業等とのコラボレーションを支援し、子供の目線に立った政策・子育てに優しいまちづくりを複合的・重層的に推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
区市町村の部署ごとの連携、土日手続きや連絡ができる体制作り	
東京都でベビーシッター助成や産後家事育児支援制度、保育園未利用児童の家電支援等の制度を作っているのに、基礎自治体が制度を導入してくれないので結局活用できず困っている。同じ都民なのに、支援を必要としているのに、利用できる家庭とできない家庭があるのは不公平に感じる。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
プラットフォームづくりが大切。行政に対して意見、提案出来る中間支援団体などの存在が大事	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子供が加速度的に少なくなっている今、兵庫県明石市のように地域側から子供の教育や育児に寄り添う施策を提示していただけることを期待している。	
地域に根ざした活動をしている人達への財政支援、制度的なバックアップ体制の増進	
冒険遊び場の推進	子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取組を推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
地域住民と行政が主体的になって少しでも多くのプレーパークを作ること	
外遊び型子育てひろば、地域にひらけた農園を作る。	
どんな事に取り組もうとしているか、取り組む前に情報開示してほしい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
行政区の境に住んでいる人は、実は隣の区の情報も知りたかったりする。ここに挙げられているような施設をマップ上にまとめる、というのは都しかできない取り組みかもしれない。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
先駆的・分野横断的な取り組みについて、さらに拡充してほしい。	今後の政策展開の方向として、地域における子供施策の担い手である区市町村が、地域のニーズに応え、子供の目線を取り入れた先駆的な取組を実施する際の支援を強力に推進してまいります。

【区市町村と緊密に連携し、地域の子供の笑顔につながる取組を推進】

意見内容	都の考え
兵庫県明石市の取り組みのように、名前ではなく実態のある取り組みを期待する。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
地域が安全な場であることが重要。生活する上でまずは安全であるか。学ぶ環境が安全であるか、環境を整えることが必須	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
学校の先生の負担の軽減、多様な子どもたちをサポートできる体制、のびのびと学校に通える仕組みづくりが急務だと思う。学校を変えることが一番効率も効果も大きいと思う。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
都内には文化的公共施設が数多くあり、ぜひそれを東京にいる子供たちの学びの場として今後も活用できるようにしていただけると嬉しい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
小さな違和感や悩みに気づける地域の大人を育てること、子どもが相談しやすくすること	子育てに全力で取り組む区市町村の先駆的・分野横断的な取組や、こどもスマイルムーブメントに参画する企業等とのコラボレーションを支援し、子供の目線に立った政策・子育てに優しいまちづくりを複合的・重層的に推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
地域に限らず、子どもの興味が湧いたらまず相談できるような、図書館のレファレンスカウンターのような設備が欲しい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
区市町村だけでは難しい、海外事例など先進的な取り組みの調査、リソースが足りない場合の支援（外部人材の派遣なども含む）などを期待したい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
この政策パッケージを区、市レベルでアクティビティ分解し、区民、市民の意見を別途パブリックコメントで吸い上げて決めれば良いのではないかと思料する。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
所得制限を撤廃	子供関連施策における対象範囲の設定に当たりましては、それぞれの施策の目的などを踏まえまして、適切に判断されるべきものでございます。
年少扶養控除復活を都内だけでも実現させれば東京都の経済は回り始め、子どもに使えるお金も増え、子どもが笑顔になる。	御意見として受け止めます。

【区市町村と緊密に連携し、地域の子供の笑顔につながる取組を推進】

意見内容	都の考え
内容がよくわからない。	御意見として受け止めます。
行政が子育てに関与しすぎないようにしてほしい。	
こども真ん中と言いながら、与党支持の事業者への支援は手厚く、子育て政策に熱意を感じられない政策ばかりである。都からの働きかけを希望する。	
笑顔は目標にしなくてよい。	
少しは都民から直接話を聞く機会を持ってみてはどうか。教育委員会は、虚偽報告している。	

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
子供を持つ両親の生の声を聞いて、問題、課題について考えながら対策を講じてほしい。	身近な場所で子供と交流しながらヒアリングを実施するとともに、子供を日常的にサポートしている大人への聞き取りも実施し、子供目線に立った政策を展開してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
児童施設で働いていますが、都の政策・取組に触れた記憶がない。現場で働く人たち、そこに通っている親子にも視点を向けていただけるとありがたい。	
専門家の意見を聞く前に、子供が置かれている状況を自分の目で見て、肌で感じて政策を考えてほしい。	
こどもを見下さずに向き合うこと	
子どもへの理解、子ども観等、根本からの改革	
子どもを対象とした相談機関（NPO など）は複数ある。大きな声を出せない子どもの声の蓄積がある。まずは聞き取りをし、子どもにも階層があること、教育面と生活面と福祉面でそれぞれ課題があること、子どもの周りに大人がいること、大人の問題を観ずして子供の問題は扱えないことを考えてほしい。笑顔以前に生存が危ぶまれる子どもも複数いる。「子供」をイメージで扱わないでほしい。	
「学年が上がるほど、気持ちや考えを聞かれていないと感じる子供が多い」とあるように、日本の学校は学年が上がるほどに、大人側がルールを決め、それを子どもに従わせる「管理教育」が強化される傾向にある。子どもたちにとって、身近な学校をどう民主化していくか、学校生活においてどう子どもの声を重視するかが全く触れられていない。地域の取り組みだけでは、一部の問題意識の強い子どもだけが参加し、子ども全体の声を拾えない懸念がある。世代全体の自己肯定感や効力感を高めるためには、日常生活で民主主義をいかに体験するかという視点を大事にしたい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
親子が孤立しない、近所の人の距離感を個人が選べる環境のために、多様な居場所の確保をお願いしたい。 「誰一人取り残すことなく」と謳っているが、「都庁一丸となった子供目線の取組の実践」(P35-36)や「こどもスマイルムーブメント」(P39)の取り組みを見ると、特に保護者の教養レベル、情報リテラシー、収入によって、それぞれの体験等にアクセスできる子どもとそうでない子どもが出てくるように感じた。「誰一人取り残さない」のであれば、力を入れるべきは、子ども自身がアクセスできる距離に、本当に子ども目線でその子の「やりたい」を応援してくれる大人がいる日常の居場所づくりではないだろうか。	今後の政策強化の方向である「誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化」において、多様な子供の居場所を創出してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子どもの環境を、大切にしてほしい。 「子供の目線に立って徹底的に捉え直すという価値観の転換、マインドチェンジを図る」とあるが、「子どもは本能的に自ら育つ力を持っている」という理解を持つことが「子どもの目線に立つ」ために必要な価値観の転換だと考える。 「子どもは本能的に自ら育つ力を持っている」という前提に立つと、子どもに必要なのは「サービス」ではなく「環境」であり、行政の役割は適切な環境整備だと考える。	都庁の総力を挙げて取組を進めるとともに、社会の多様な主体と様々な形で連携しながら、子供目線の取組を強力に推進することで、子供の笑顔があふれる東京を目指してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
外遊びの推進にふさわしい場が、都立公園にあるので、ぜひそれを活用してほしい。都立公園は広大なので、その一角を開放することで実現できる。子どもの暮らしの中にあってほしいので常設にしてほしい。	【子供の笑顔につながる「遊び」の推進】の政策強化の方向である「既存スペースの利活用」も含め、子供達が伸び伸びと遊び、多様な体験ができる環境づくりを推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
外遊びの推進について、キーとなる人の配置に充分考慮してほしい。管理人としているだけの高齢者ではなく、真に子どもの味方となる研修を受けた人材が適している。冒険遊び場の実践の蓄積は役立つと思う。	【子供の笑顔につながる「遊び」の推進】の政策強化の方向である「多様な経験の機会の創出」において、異年齢の子供や家族以外の大人など、幅広い人的交流を通じて、様々な遊びや体験ができる機会を創出してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
公園には立て看板が増え、「遊び」の種類や質、子ども達の「やりたい気持ち」が存分に発揮できる場所がどんどん減っていると感じている。 ルールは大切だが、枠の中でだけ、決められたことだけになり自由さが制限されると同時に遊びで学ぶ子どもの可能性も制限されてしまうなど心配になる。 外遊び等で小さい頃から体を動かして、自分の体の使い方を自然と学んで行けたらいいと思う。	子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりに向け、多面的に取組を推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子供が伸び伸び遊べるよう公園の遊具なども工夫してほしい。	
コロナで小さい子ども達の交流も少なくなったなど実感している。 一緒に遊ぶ経験、自分の家族以外の大人達とのふれあい、みんな違ってみんないいという感覚が身につけられるといいと思う。	
現在の情勢（コロナ）に怯えない、一歩踏み込んだ子供達の遊び場作り	
こどもの権利条約に基づき、家庭的な養護環境を整えていくこと。特に障害児の大規模施設入所が、小規模な家庭的養育に変わっていくことを期待する。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
1クラスの人数を15人までにする。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
学校給食について、小学校は自校式で実施されているのがほとんどだが、中学校も全ての学校で自校式にしていくべき。高校生も含め、夏休み、冬休み、春休み中は希望者には給食を提供する。この2点を実施していく。コロナ禍で親の経済格差がますます広がり、「今日何も食べていないとか家に何にも食べるものがない」と言う子がいる。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
専門資格があることよりも、子どもの目線で子どもに寄り添い、常に自己研鑽していく姿勢をもつスクールカウンセラーの常時設置も必須だと思う。未だにいじめられる側にも問題があるなどと言ってしまふ教師がいたり、性暴力や体罰など、自分をコントロールできない教師がいることに、憤りを覚えている。	政策強化の方向である「誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化」において、困難な環境にある子供への支援を一層充実させてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
臨床心理士が一校に一人は配置されるようになったが、まだまだ足りない。一校に三人、例えば月、水、金と別々の臨床心理士が行った子供の話を聴くシステムを作れば、子供が臨床心理士を選べる。特に心の問題はデリケートでその臨床心理士に一度でも嫌な印象を持つと、もう行かないと言う。もしほかの臨床心理士がいれば違う人に言ってみようという気になる。それぞれの子が気の合う臨床心理士を見つけて行ってみようということが起こってくる。気持ちを伝えることを一回で諦めてしまうのではなく、もう一度他の人に伝えることは子供にとって大きな学びになるし、諦めないことを学ぶことで生きることを諦めないことを学ぶ子も出てくることにつながる。「つらい気持ちの子を一人も見逃さない」そんな社会を作る大人としての努力が、社会人、政治家に求められています。子供の命を大切に考えるなら、子供が生きる力を持ち、自分の人生をしっかりと自分で歩んでいけるように最大限実行しないといけないと思う。	
「東京都が、どんなに良い子育て支援施策を打ち出してきても、市においてこない。ベビーシッター助成や、家事時短家電等クーポン等、市が『できない理由』『やらなくてよい理由』を出してきて却下する。」という事態を何度か目の当たりにして、「市区町村の既存のリソースに依存する政策」は、あてにならないと失望している。 都税を使うのであれば、「子育て中の都民」「東京都に住んでいる子ども」なら、誰でも平等・公平に享受できる事業を実施していただきたい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
日本国政府が設置するこども家庭庁との連携の記載ないがそれで良いのか。再考願う。	令和4年6月の「こども基本法」の成立や、令和5年4月に設置予定の「こども家庭庁」の動きを見据えるなど、国と連携し子供政策を推進してまいります。
保育園を乱立させるだけでない、楽しく子育てできる啓蒙やシステムが必要	今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
一番期待していることは公教育の質の向上。コロナ禍で対応すべきことが多く現場の先生方は大きな負担がかかっていると思うが、ぜひ東京都では教員待遇改善や人員補充などの人的投資をしていただき、子供たちの未来の支柱となる教育を強化していただきたい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子供が向上心を持って学べる仕組みに期待したい。今の日本のような勉強損、働き損の仕組みでは子供達の向上心は育たない。学習意欲は低下し、集団としてレベルが落ちていくだけ。また、数少ない優秀な人材は海外へ流出し、その優秀な子供も日本からいなくなる。これが繰り返されることで日本の国力低下にも繋がってしまう。	
一番大きな問題は教育だと思う。そこを抜本的に大幅に改良する事。そこを中心に教育機関以外の児童館や遊び場などの居場所を整備や配置する。	
小中高を通して演劇、ディベートのクラスを設ける。	
性教育を全ての子どもに実施する必要がある。小学生には低学年から、「性被害を未然に防ぐために」と「子供が自分で自分の体を守ることができるように」を重点にした性教育をしていく責任が教育機関にある。中学生、高校生にはネウボラをいう前にしっかりと体の成長や性を学ぶ授業を実施して、望まない妊娠を避けることが大事。性教育の授業を受け持つのは専門家で、配置するか派遣するべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
根本的に教育の機会喪失が起きていたり、待機児童 0 の実態も子育て世帯の頑張りによるものであるため、それらの問題解決を優先すべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
毎日、情報を大量に浴びる現代社会で、情報の取捨選択ができることで健全な心が育つと考える。「自分で選ぶ責任が持てる子ども」を異次元のスピードで育成していかななくてはならないと思う。	
虐待が蔓延している場所は同時に DV も蔓延している。そして DV はデート DV からの延長であることがほとんどです。「デート DV」という言葉自体はまだ見知らぬ単語かもしれないが、日本の昔からの「男尊女卑」の考えにも深くつながっている。虐待防止を考えられるのであれば、合わせてデート DV の防止にも目を向けていただきたい。そして都の小学校・中学校・高校での「デート DV 講座」の開催を検討いただきたい。	都は、デート DV 防止に関する教育について、内閣府と文部科学省が共同で作成した教材や指導の手引等を都内全ての公立学校に配布し活用を促すなど取組を進めています。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
DV を受けた母親がやっと逃れられたのに、チルドレンファーストにしたために、父親と連絡を取り合うことが必須になる可能性がある。子供たちが元気で笑顔で過ごせるように、DV を受けて逃れたお母さん達の立場も考えたうえで、チルドレンファーストを進めてください。	都は、配偶者暴力の被害者支援に向けて、被害の早期発見、多様な相談体制の整備、安全な保護体制の整備、生活再建のための自立支援など、区市町村や警察、民間団体等と連携し、幅広く取り組んでおります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
母子家庭でも子どもを安心して預けることができる体制、働きやすい仕事を増やしてほしい。元夫が DV の場合は隠れて暮らす必要がある。	
母親の DV や虐待から子どもを守る視点で、子どもの人権侵害をなくす方向の取組を期待する。	政策強化の方向である「誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化」において、困難な環境にある子供への支援を一層充実させてまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
精神的虐待の理解がもっと広まってほしい。	
共同親権について、子どもの権利の観点から DV など被害に遭っている家庭を守るためにも、推進団体よりも被害に遭っている当事者意見をしっかりと大切にしていきたい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
母親による子どもの拉致を根絶することにつきる。	御意見として受け止めます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
教育、特に保育士や教員の待遇の改善。保育士や教員の給料アップとサポートの充実を。人を増やして余計な仕事を減らして残業を減らして、保育や教育の質を高めるように。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
「東京は子育ては非常に大変」とよく言われる。自然環境的な制限は仕方のないことだが、おそらく、母親にとって精神的なしんどさが大きいという意味だと認識している。よって、子供政策＝親(特に母親)支援の充実を常に念頭に置いてほしい。	今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子供を持つ世帯を優遇して欲しい。朝のラッシュ時にベビーカーでは乗れないだろうな、など、普通に生活していても子供を持つと移動も行動も制限されることがあると思う。子供が、そして子供の保護者が守られる社会になって欲しい。	
共働き世帯では、子供を希望していても、生活や仕事にどのような影響があるかわからず、仕事に悪い影響があるタイミングで出産し辛くなってしまったり、そもそも妊娠を諦めたりしている。産んでからだけではなく、妊娠希望者への子育てプラン立てについても、経験の共有や、プランニング支援があると、子供を産み、前向きに育てやすく、ひいては親子の良い関係や子供の笑顔につながるかと思う。	今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
育児を念頭におくと、一度正社員を離れてしまうと、その後の選択肢が少ない、実質パートしかないことも、大変不安。ブランクがあっても復職できたり、正社員登用されたり、といった社会になることを願う。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
全国 22 万人もいる不登校の子供について、この子達の学習の機会、居場所を増やしてほしい。	政策強化の方向である「誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化」において、困難な環境にある子供への支援を一層充実させ、不登校児童・生徒対策を展開してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
障害や貧困や不登校等は、表面化した問題を解決するだけでなく、『心』の問題として向き合うべき。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援。国の政策としても来年度より動きがあるようだが、素案をみる限り、結局のところは自治体任せになっている。東京都こそ先陣切って体制を整えて全国のモデルとなしてほしい。この層を取りこぼして社会孤立させている社会的損失は計り知れない。	今後の政策強化の方向である『東京型教育モデル』により、教育の質を向上」において、一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす学びなどを推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
とにかく言葉だけにならないで、どういう取り組みをしているかを具体的に発信していただきたい。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
サービスについて「情報をまとめる、窓口の集約化」を優先させるべき。	都庁の総力を挙げて取組を進めるとともに、社会の多様な主体と様々な形で連携しながら、子供目線の取組を強力に推進することで、子供の笑顔があふれる東京を目指してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子育て政策についての住民理解の向上に向けた取組	
子供を持つ世帯に対して何も出来ないことが歯痒いと感じる。ただ、やはり子供を持つ世帯にとって、見知らぬ大人の関与は恐ろしいだろうとも感じる。都として子供に対して貢献したいと考える单身者に対し、保護者が安心出来るような施策を打ち出してもらえたら是非参加したい。	
待機児童0問題はもはや東京都全体の問題であるので、保育の質の観点からもしっかりと施設側が維持管理していける仕組みを作ること	御意見として受け止めます。
結婚出産子育てを特権化させないための社会構造の整備	
まず大人が政治や社会問題に興味を持ち、議論する場を作り、無駄な対立はやめて早期に問題を解決すること	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
区立の学童定員増。一年生優先で二年生以降が入れないのは困る。	より多くの区市町村で多様な子供の居場所づくりが進むよう積極的に働きかけてまいります。
学校が最も重要な拠点となっており、家庭教育の多様化で役割が年々増大している。まずは、思い切った増員と予算措置が必要だと考えている。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
結婚したい、子供を育てたいと思えるには、社会全体の給与を上げることでないかと思う。貧困だと、心に余裕が持てない。金銭的余裕は考え方も視野が広がる。	今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
保育園の質の向上、そのための補助	全ての乳幼児の最善の利益につながる、環境づくりを推進してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
0歳児から預けたい人ばかりではないはずなので、今後も余裕のもった保育園運営ができるよう、補助などしていただきたい。	
保育士配置基準と保育園開所時間は本当に見直してほしい。また、認可保育園でも無認可保育園でも基準を統一してほしい。どこに預けられても子供の命は皆、等しく大切	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子育て世代への支援拡充	今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
子供達にかかる費用の補助、無償化	
子どもの貧困対策からのひとり親支援は喫緊の課題である。養育費保護事業の拡充と継続を。	
都立の学校の学費の無償化を実現してほしい。	都は、平成二十六年度から全国の公立高等学校の授業料に適用された就学支援金制度につきまして、都立高等学校において適切に実施しております。
高校無償化などについて、所得制限の撤廃を。	
給食費の無償化を実現してほしい。	御意見として受け止めます。
学校で使う必要物品の支給なども実現してほしい。	授業料以外の教育費につきましては、国は、高校生のいる低所得世帯に向け教科書及び学用品等に充てるための奨学のための給付金制度を設けており、さらに、高校生等が家庭の経済状況にかかわらず自らの未来を切り拓いていく力を伸長できるよう、都独自の給付型奨学金により、多様な教育活動を対象に保護者の教育費負担の軽減を図っています。
大学の学費撤廃（施設維持費のみ徴収）	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
小児医療費の都全体での無償化	都は、子供の医療費助成について、子育てを支援する福祉施策の一環として、所得制限及び通院時の一部自己負担（小中学生は1回 200 円）を設けた上で、市町村が実施する事業に対して補助を行っています。なお、具体的な実施内容は、事業の実施主体である自治体が、それぞれの地域の実情を勘案して定めています。
子供への援助がある家庭とない家庭があるのは、子供への差別ではないか。	子供関連施策における対象範囲の設定に当たりましては、それぞれの施策の目的などを踏まえまして、適切に判断されるべきものでございます。今後の政策強化の方向である「子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援」において、子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化してまいります。
23 区内では多くの世帯が所得制限により子育て支援を受けられずにいる。家庭の状況は様々で中には親の意図にそぐわない進路を選んだ子の学費支援を行わない親もいるのが実情。そのような子供たちを助けるためにも都がまずすべきは各種子育て支援にかけられた所得制限を撤廃する為に行動する事ではないかと考える。	
23 区内だけでなく多摩地域、島嶼部なども含む都内全域で、子供の支援に対する所得制限を撤廃し全員一律に支援してほしい。	
児童手当についての所得制限を撤廃して安心して子育てさせてほしい。	
全ての子ども政策に所得制限の撤廃を求める。あと2人子どもが欲しいが金銭的に厳しく躊躇っている。	御意見として受け止めます。
年少扶養控除を復活させてほしい。	
朝鮮学校に通う子どもの利益と権利保障を第一に考えた都政の見直しは、喫緊の課題と思う。	御意見として受け止めます。
東京都が私立外国人学校教育運営費補助金を朝鮮学校にのみ支給していない政策を見直し、ただちに同補助金を朝鮮学校に支給することを期待する。	朝鮮学校への補助金の支出については、教育内容や学校運営に対する様々な疑義が示されたことから、平成 22 年度以降、補助対象から除外しています。その実態を確認するため、平成 23 年 12 月から平成 25 年 10 月にかけて調査を実施し、その結果や、その後の状況等を総合的に勘案して、運営費補助金を交付することは都民の理解が得られないと判断しています。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
コロナをきっかけに田舎へ移住した人の多くは、子育て環境の改善が目的だったと聞く。「保活」が大変、のびのび遊べる場所がない、「お受験戦争」に巻き込まれたくない、などの声を聞いた。「チルドレンファースト」の実現は、直接的に人口流出に歯止めをかける可能性があると感じている。	御賛同の御意見、ありがたく受け止めさせていただきます。都庁の総力を挙げて取組を進めるとともに、社会の多様な主体と様々な形で連携しながら、子供目線の取組を強力に推進することで、子供の笑顔があふれる東京を目指してまいります。
子供政策については、東京都はとても子育てしやすく、また改善も意欲的に行われていると実感している。今後も東京都の政策に期待している。	
子どもが減っている状況をととても危惧していたので、これだけ東京都が動いてくれることに期待している。問題がある子だけでなく、大人が子どもへの関心を高めていければ、結果的に子どもたちが救われることになると思う。多くの子どもたちが生まれる希望や、命を落とす子どもが減る東京都でありたい。	
待機児童ゼロに近づいてきたと報道を見た。ご尽力ありがとうございます。	
多様な環境要素で構成される東京都でしか出来ない、先進的な取り組み、政策パッケージを開発願う。	頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
都民に意見窓口を積極的に開いてもらい、毎回都の取組は有難い。 ただ、今回のアンケートに関し、全てにおいて重要か否かを問われると子供政策としてはどれも重要であると答えざるをえない解答欄だと感じました。	御賛同の御意見、ありがたく受け止めさせていただきます。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。

<今後の東京都の子供政策・取組に対して期待すること>

意見内容	都の考え
本文書は「子供」、政策名は「こども」で表記揺れが目立って精読しにくい。 一考願う。	御意見として受け止めます。
無駄に横文字や知らない単語を使うこと、固有名詞を新たに作ること、戦略的などのかっこよさげな単語を使うことをやめてほしい。	
「ファースト」という名称はやめるべき。	
東京都に子どもの環境を整える事は不可能	
行政が子どもたちの世界に手をつき込むのは控えるべき。行政や「健全な大人」から褒められて見せる子どもの笑顔は本当の笑顔ではない。	

※頂いた御意見の公表に際し、内容が特定の個人や団体を誹謗・中傷するものや、原文のまま公表することに支障があると判断したもの等につきましては、非公表あるいは一部編集、要約をさせていただいております。

※同趣旨の御意見につきましては、整理、集約した上で掲載させていただいております。